

国際会議報告

AIC2025 Taiwan 参加報告

Report on the 16th Congress of the International Colour Association

徳永 留美

Rumi Tokunaga

千葉大学

Chiba University

AIC2025は2025年10月19日から24日に台湾の台北市で開催された。会場は、台北駅から地下鉄と徒歩で20分程度にある松山文創園區であった。この区画は日本統治下にタバコ工場として稼働していた古い工場跡である。現在は、台湾における文化の中心で、台北ドームも隣接し、運動・文化、アート・デザインの中心地となっている。敷地内には、倉庫やボイラー棟、機械修理の建物などがあり、敷地内中央の煙草工場が会場であった。会場の様子を図1に示す。工場がそのまま会場となっており、床は石、天井には木材が使用されており、歴史を感じさせられた。図1の右端に写っているように、両サイドには自然にある色を題材とした立て看板が色相順に配置されており華やかであった。



図1 会場の様子 (奈良女子大学・鍵本先生ご発表)

19日のウェルカムレセプションは、Fubon Art Museum (富邦美術館) で開催された。Anthony McCall氏の作品の観賞があった。光と影を題材としたもので、広い空間で指向性のある光を用いて、影を光で彫刻すると、光を影で彫刻すると見えてとれる作品であった。3次元における白色、黒色の魅力を改めて感じた。また、バイオリンとフルートの生演奏とともに作品を観ることができ、闊の空間を自由に漂う粒子と音色とのコラボレーションが心地良かった。

今回の学会直前には台風24号(風神・フンシェン)が発生したが、南シナ海に抜けて安心したのも東の間、ウェルカムレセプションの途中から24日まで台風の

余波を受けた。その為、20日のスタディーグループがキャンセルになり、また、Lee先生や大会スタッフが所属する台北市北部にある中国文化大学や華梵大学が休校になるなどしたが、学会としてはスケジュールをずらすことなく実施することができた。台湾では、行政区が学校や勤務の停止を決める停班停课(台風休み)があるが、一部の学校を除き、それは発令されなかった。

Invited Lecturesは9件あり、20日はLeed大学のWestland先生による色の応用におけるAI技術の可能性についての講演であった。通りを歩いている人の服装の色の識別についてAI技術を用いた場合に、人の応答と一致する結果が紹介された。この技術は“弱いAI”と呼ばれているもので、汎用性も高く、今後も活用に期待がされる技術である。しかしながら、次の段階にあるAGI(自ら学習し応用することのできる“強いAI”)は実現しない可能性があることが指摘された。色の応用についてAGIを実現させる為には“知覚”が必要である可能性がある、またトレーニングデータの枯渇の可能性、電力供給や倫理面での問題が理由であった。いずれは実現するかもしれないが、しばらく時間がかかりそうだ。学会におけるAI技術に関する発表について調べてみた。口頭発表では“Color and AI”のセッションにおいて4件の発表があり、その他、題目にAI技術が入っている発表を含めると13件であった。今後も技術の活用と進展が期待できる。

22日のガラ・バンケットは、“le meridian hotel”で開催された。会が始まると、椅子の下にプレゼントがあることが告げられ、各テーブルにつき、1名がプレゼントを引き当てていた。またビンゴ大会があったが、なかなかビンゴ成立者が出ず、皆が長く楽しめた大会となった。早くにビンゴ成立となった参加者には、木の土台のマンセルツリーが提供されていた。

今回の学会で最も遠方からの参加者はアルゼンチン共和国からで、渡航時間が36時間であったそうだ。AICの魅力は、色の基礎・応用の知識の学びから体験や色彩教育までとトピックが豊富で、さらに、色に興味のある人と共感することができる。今後もAICには参加していきたい。